

2019年度 教育活動等に対する園関係者評価

社会福祉法人愛の園福祉会
第2幕張海浜保育園

1. 保育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

《基本方針》

- ①心の清い正直な人間・・・（良心教育）
- ②心の豊かな明るい人間・・・（情操教育）
- ③からだの丈夫な強い人間・・・（健康教育）
- ④動作の機敏な人間・・・（安全教育）

2. 本年度の重点課題

- ①職員が法人の理念や保育目標・方針を共通理解するための取り組みを行う
- ②保育環境の見直しを行う
- ③食育の推進（乳幼児期にふさわしい食生活の展開・適切な援助を行う）
- ④保護者配布物・園児記録簿・及びそれにかかわる書類の見直し
- ⑤働きがいのある職場作り
- ⑥安定した質の高い保育を支える職員の育成の取り組みを行う（キャリアアップ）

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(評価はS90点以上 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D50～59点 E50点以下)

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	【支援が必要な子どもに対する適切な対応】 ・個々の子どもの発達の実態について職員間で共有する。園全体でその子どもの育ちを支援する。	A	・定期的に専門機関と連携を図りながら、情報共有や個人支援方法についての検討・相談会を行った。 ・個別支援プログラムの作成を進めていく。 ・定期的に職員間で個々の発達状況とについて話し合い情報を共有していく。	A	支援が必要な子だけでなく、担任以外の保育者も日中の様子や機嫌などを細かく教えてくれるので、連携が取れているように感じた。
	・発達支援の研修や報告会を通し学び合う。	A	・各研修に参加した際には報告書（内容によって会議）などで共有している。	A	今後も継続し行っていく。
	【食育計画を立て実践する】 ・楽しく食事が出来る様に、環境を整え情緒的安定を図る。	B	・常に配置を考え、子どもに対応する職員数を確認したうえで食事に関わっていく。 ・子ども達が落ち着いた環境の中で食事をする事が出来ているか定期的に話し合い改善に取り組んでいく。	A	簡単な食事のマナー等を園で教えてくれているのは助かる。
	・各年齢発達に合わせた食育のねらい・目標を理解する。	B	年間を通して食事について勉強会・会議を行い食事の基本的な考え方を統一した。 各年齢に沿った食事のあり方・保育士の関わり方についてなどを話し合う。まだ実践と結びついていない職員もいる為、継続して会議を持っていく。	B	引き続き会議を行っていく。
	・栽培・収穫したものを使って、クッキングをしたり、食べることを楽しむ。	C	・今年度より栄養士が変わった為、昨年度よりも食育活動に取り組み回数が減少した。その中でクラスでもう少し子供たちの意見を聞いたり話し合う時間があっても良かった。 ・クッキングへの取り組みも短い期間で野菜の下処理などを計画したため子供への負担もあり反省が残る。	C	幼児は特に野菜がどうやって出来たのか、下処理の仕方などの話が減ったのが気になっていた。忙しいとは思いますがクッキングは行ってほしい。
特色のある保育の展開	【保育園の取り組みの様子を地域に公開する】 ・選ばれる園になるために園での取り組みや情報を地域に公開する。	C	・園での取り組みや情報を地域に配信することへの職員の意識が低かった。ブログで配信する他、園外散歩中に保育園をアピールする方法を全職員で考え実践することが課題に上がるため積極的にアピールすることに取り組んでいく。	C	海浜公園内の掲示板、公民館や近隣施設、駅などにチラシを置いてもらう事も出来る。
	【育児について相談できる機会を広げる】 ・保護者同士のつながりが深まるための方法について検討する。	A	・保護者同士のつながりが深めるために今年度も新学期に親子で遊ぼうを実施する。取り組むことにより新入園児や普段かかわりのない保護者同士の紹介や関わり合いが持たされた為、次年度も継続していく。	A	同じクラスでもお迎えの時間が違うと話す機会もないので「親子で遊ぼう」等の保護者同士で話せる機会は大切にして欲しい。
	・保育者との個人面談を取り入れる。	B	・誕生参観試食会、及び懇談会にて場を設けている。幼児組は個人面談の他、年長児クラスの進学に向けての個人面談も行い保護者の日頃の悩み等も聞く機会を設けた。 (個人面談年2回実施)	A	進級のタイミングでアンケートや面談による育児の相談なども一緒に行っても良いと思う。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
保育環境の充実	【環境の見直し】 ・落ち着いた家庭的な環境となるように見直しを行いさらなる工夫を重ねる。	B	・子供たちの生活のしやすさ、動線を考え環境作りをするためにもクラス内の配置の工夫をする（幼児組） ・安全面を配慮したうえで家庭的で落ち着ける環境の工夫をする（乳児組）	A	園内に入った際、レイアウト等に工夫が見られ良かった。
	・室内遊具・生活用品を整え子供たちが主体的に遊び、生活する環境を整える。	B	・子どもの成長発達に合わせて玩具を購入する。特に3歳以上児が主体的に継続的に遊べる玩具を揃え環境を整えてきた。その後の遊びの継続性について課題が残るため保育者が遊びのデモンストレーションを行いながら遊び方や、ごっこ遊びへの発展を目指していく。	A	戸外活動をもっと増やして欲しい。（特に幼児）子どもがもっと外で遊びたいと言って帰ってくることもあった。
保護者との連携	【行事への参加】 ・誕生参観や親子で遊ぼう・行事への参加を促し参加しやすい日程調整を行い懇談会の開催をする。	B	年間行事予定を早めに知らせることに努めた。また、行事参加へは日頃の子どもの様子を伝えることで行事への参加を心待ちにできるようにブログやお便りを通して伝えた為、昨年度よりは乳児組の参加者も増加傾向であった。	B	今後も継続し行っていく。
	【園だより・カリキュラムの工夫】 ・園の様子・園児の様子がわかるよう、保護者が読みやすく、読んでもらえるような紙面の工夫をする。	B	・昨年度の反省を生かし、園だよりの工夫やお便りの回数検討を新学期に行う。 ・まだ家庭により配布物の閲覧に差があるため発行日の検討などもしていく。 ・紙での配布の他、ホームページ上でのお手紙配信も視野に入れて考えていく。	B	メール配信にして欲しい。兄弟がいる子(小学校等)からも手紙が配られ目を通せない。メールだと通勤中などにも確認しやすい。急にメールに変更するのは難しい。一定期間はメール+手紙で対応すると良い。
保育者の質の向上	【個々の子どもに合った保育の展開が出来る力を身に着ける】 ・保育の計画（日案）や評価（日々の保育の反省）を基に次の保育が保育者の願う姿と、今の子どもの姿が一致するよう、月案・週案・日案・評価・環境づくりのつながりを重視する。	B	・月案・週案・日案・評価のつながりは出来ているが個人差がある。 ・子どもの成長発達や生活面を捉える視点も個人差があるため会議で年齢発達の確認をしていく。（指針読み合わせなど）	A	今後も話し合いを行い、職員が同じ目標に向かって保育が出来るようにして欲しい。
	・法人キャリアアップに促した保育の実践が出来る様学びの場を持つ。	C	・聖書の読み合わせ・手遊び・ピアノなど、自らが学びたい事を深められるよう意識の向上を図っているが個人差があり職員の意識の向上が大きな課題だと感じる。	A	基本スキルの向上も大切だが、個々の得意なところを伸ばす事も大切にしてよいと思う。

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
入園児募集	【園の保育内容についてわかりやすく発信する】 ・ホームページを通して保育内容や行事を定期的に提示できるようにする。	C	・ブログ配信は日ごとに各クラスで分担されているが思うように配信することが出来ず偏りが見られる。偏りなく配信出来る様に心掛けていく。	C	入園を決める一つとして、ホームページ・ブログ・園での様子がよくわかる内容は大切。最低、週二回更新が望ましい。
	・園のリーフレットを市や区役所窓口に常時設置する。	C	・リーフレットの見直しも定期的に行いより良いものを配布できるようにする。	C	近隣施設、駅などにチラシを置いてもらう事も出来る。
危機管理	【緊急時に対応できる行動計画を作る】 ・感染症・自己食物アレルギー発作に対する実践的研修を行う（年3回）	A	今年度は食物アレルギー児がいた為、全職員で共通理解を図るため定期的に確認をしている。	A	今後も継続して行っていく。
	・災害時の職員の勤務についての基準を作りマニュアル（連絡網）として明文化する。	B	・火災・地震・風水害に一時帰宅者・帰宅困難者等記載している。職員緊急連絡網有。全職員が把握できるよう。クラスファイルに保管また事務所に掲示している。 ・防災対策カードを保護者に配布予定。	B	職員や子どもだけでなく、希望制で保護者も参加できる避難訓練があっても良いと思う。
	【保護者への説明や保育活動を行う】 ・ヒヤリハットの事例を園だより等でその都度、伝える。紙芝居を作成し、子どもたち自身の意識を高める。	C	・自園独自の子供向け紙芝居作成が出来ていない為、今後作成予定。 ・ヒヤリハットは文章化され職員共通ではあるが保護者に向けては発信していない為、園だより等を通して発信していく。	C	まとめた文を保護者にも知らせて欲しい。近隣施設とも情報共有をする必要がある。
園経営全体の向上	【法人の理念や保育目標・方針を共通理解する】	A	・毎週初めに法人の理念や保育目標・方針を朝礼で読み合わせ確認をしている。	A	今後も継続して行っていく。
	・キリスト教精神に根ざし、三愛精神の基本理念のもと保育がおこなわれている。				
	・乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。	B	・毎月行う職員全体会議の場で保育を振り返り共通理解を図っているが各学年会議の時間数にばらつきがあるため平均して全学年が行えるようにしていく（0.1歳児会議の不足）	B	0,1歳児クラスは会議という形ではなく、日々の振り返りを保育士同士で1日5分でも持てれば「会議」は必要ないと思う。
	【働きがいのある職場作り】 ・ひとりひとりが日々やりがいを感じながら仕事を続けていけるよう、現在のコンディションをデータ化する保育士ケアの導入しフィードバックする。	B	・データ化する保育士ケアを導入してもらったがフィードバックに時間が掛かっているため早めに活用し職員のモチベーションをあげながら勤務できるよう努めていく。 ・定期的に気になる職員に関して面談を取り入れている。	B	上の立場の人と職員が意見や話をしやすい環境づくりが大事になる。
【休暇の取りやすい環境を作る時間を意識した運営】 ・年間を通して長期的に見通し、実質超過勤務なしを目標に効率をはかり生き生きした勤務を目指す。	C	・時間内に休憩が取れない時もあるため少しの時間でも保育室から離れリフレッシュする時間を工夫していく。 ・年間を見通し計画を立てながら超過勤務のないよう、勤務時間内に仕事内容が終えられるにしている。 ・職員の能力により個人差があるため把握しながら時間内に終了できるよう割振りをしていく。 ・週休2日を取り入れることで身体にも精神的にもゆとりを持って勤務することが出来ている。	B	たまに朝から夜まで園にいる職員がおり、心配だった。やらなくて良い仕事を探し、残った仕事をより丁寧にすることが大事。その結果が残業を減らすことに繋がる。	